

# 三河の山京都 西尾城下町 歴史山徑



1  
古書の博物館  
明治41年、  
市内の実業家  
岩瀬弥助によって創設。  
貴重な古典籍8万冊余  
を所蔵する  
「古書のミュージアム」  
赤煉瓦の書庫は  
国の登録文化財



西尾市岩瀬文庫



盛巖寺

2  
西尾藩主  
大給松平兼全公と  
その妻の墓が残る。



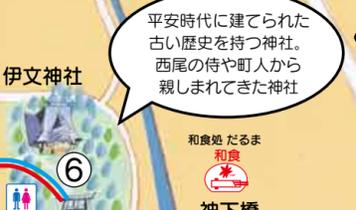
西尾市歴史公園

3  
城下町のシンボル  
西尾城本丸丑寅櫓や  
鐘石門がある。



西尾市歴史公園

4  
平安時代に建てられた  
古い歴史を持つ神社。  
西尾の侍や町人から  
親しまれてきた神社



伊文神社

5  
西尾藩主  
大給松平兼全公と  
その妻の墓が残る。



西尾市歴史公園

6  
歴代西尾城主、  
一般町人の信仰厚い  
神社で森閑とした  
境内が往時を  
しのばせる。



伊文神社

7  
西尾城東之丸跡に  
昭和初期に茶室、  
東屋、日本庭園が  
作られ、人々の集会  
の場として使われた。



尚古荘

7  
尚古荘の隣  
には明治33年  
に織布工場の  
火事により焼死  
した若い女工  
31名の碑も  
ある。

7  
明治の寺院統制に  
反対し、「大浜騒動」の  
首謀者として処刑された  
真宗僧 石川台嶺の碑

7  
西尾城東之丸跡に  
昭和初期に茶室、  
東屋、日本庭園が  
作られ、人々の集会  
の場として使われた。

7  
西尾藩主  
大給松平兼全公と  
その妻の墓が残る。

7  
西尾藩主  
大給松平兼全公と  
その妻の墓が残る。

- Aコース (約2時間30分)
- Bコース (約3時間)
- 名鉄東部交通 バス ぐるりんバス
- バス 停車 停車
- 駐車場 トイレ
- お食事 スイーツ・和菓子
- お抹茶提供あり(有料)

# 西尾情報ガイド

- ★もつと歴史を知りたい時は
  - 西尾市文化振興課  
西尾市岩瀬文庫内（亀沢町480）  
T 0563-56-2459
  - 西尾市資料館（錦城町229）  
T 0563-56-6191
- ★もつと産業を知りたい時は
  - 西尾市役所（寄住町下田22）  
T 0563-65-2169
  - ★お宿のことなら  
西尾市観光協会まで  
T 0563- 57-7882

# 交通のご案内

- ★観光・ボランティアガイドについて
  - 西尾観光案内所（西尾コンベンションホール内）  
T 0563-57-7840
- ★最新イベント・情報の検索は
  - 西尾市観光協会  
http://nishiokanko.com/
  - 西尾市  
http://www.city.nishio.aichi.jp/



西尾市歴史公園の絵石門(右)と本丸丑寅櫓



◆**西尾の抹茶**  
名産である西尾の抹茶は、禪宗の東相寺の僧が文永8年（1271年）頃にもたらしたと伝えられる。産葉し、ての茶栽培は、明治期に足立順道が手治り茶種を導入したことに始まる。西尾の抹茶は矢作川より運ばれた土壌と川霧の恩恵に負っており、まろやかな味が特色である。抹茶の原料となるてん茶は全国トップクラスである。



◆**八ツ面山の雲母**（雲母の産地として知られ、和銅6年（712年）頃には調（税金）として朝廷に献上していた。江戸時代に盛んに採掘され、明治期に廃坑となった。当時の採掘跡はほとんど埋められたが、わずかに北斜面に見られる。

◆**かぎ万燈**  
お盆の行事で、万灯山の西面にスミズミを108個がぎに連ね、8月14日夜一斉に点火する。昔この山をばさんで浅井千坊と須美千坊の僧兵が戦い、多くの犠牲が出たため、この人々を埋めて千人塚を作り、かぎ万燈を焚いてその霊を弔ったのが始まりとされている。遠く多治原、西三河一帯より見え、夕涼みかたがた見物する人が多く、火つきの善しを見て豊作を占うと言われている。

# A コース

西尾市歴史公園～鶴城公園コース  
（約3.3km）  
所要時間 約2時間30分

**西尾城**  
13世紀前半の鎌倉時代、西尾の古い名称である吉良荘は足利（吉良）氏に統治されるようになった。承久の乱の戦功により守護に任じられた足利義氏は長子長氏を地頭に配し、その拠点西尾城付近としたと伝えられる。応仁の乱以降、各地の城が築かれるなかで、現在地に規模の大きい城館が建てられた。永禄4年（1561年）、徳川家康の家臣酒井 正親（政家）が入城し、天正13年（1585年）には家康の命で西三河南部の拠点として城郭が拡張・整備され、田中吉政時代にさらに拡張された。江戸時代には、本多氏、松平氏、太田氏、井伊氏、増山氏、土井氏、三浦氏と城主が代わり、城下町の整備が進んだ。明和元年（1764年）に大給松平氏が西尾藩主となると六万石の城下町として栄えた。明治5年（1872年）に廃城となり、建物はほとんど壊された。現在は、西尾城二之丸跡地へ天台、丑寅櫓台の石垣が復元され、西尾市の歴史と文化を体感できる施設として親しまれている。

**本丸丑寅櫓**  
櫓の高さ約10mで三層からなる。面積は一・二階が6m四方、三階が4m四方となっている。屋根は本瓦葺、壁面は各層とも上部は漆喰塗籠籠、腰部は下見板張。平成8年再建。

**旧近衛邸**  
京都の近衛邸内にあった建物の一部、書院と茶室を移築した。摂家筆頭として左大臣を務めた公家の近衛忠房邸に、夫人の縁で、島津家によって建てられた。江戸末期の建物と推定される。書院は十畳の「一の間」と八畳の「二の間」がある。通常の建物にくらべて柱は細く、長押を用いず、簡素で落ち着いた数寄屋造りである。茶室は六畳の茶室と「次の間」、畳廊下からなっている。手前座間に床を構えた「亭主床」と呼ぶ特異な構成で、床柱も高く、公家の茶の湯にふさわしいつくりとなっている。（平成7年移築）

**尚古荘**  
昭和初期に米穀商の大黒屋岩崎明三郎氏によって作られた日本庭園と建物。東の丑寅黄櫓跡など、史跡の一部を利用した庭園設計がされている。西尾城への思ひから尚古荘と命名された。金物商錦屋八代目住利八の別邸として建てられた茶室や東屋もある。（平成8年修復）

**康全寺(曹洞宗)**  
応永5年（1398年）、城内の御剣八幡宮の近くにあった八幡六坊のうち釈迦堂と大日堂を移し、吉良山満全寺とし、異国僧助外乗空禅師が復興した。当時吉良氏の領主であった吉良氏も深く帰依していたという。天正9年（1581年）、酒井重忠の城主時代、徳川家康が村巡視の途中にこの寺に泊まった折に、家康から一字をもらい、西尾山康全寺と改めたという。同13年、西尾城拡張の際に現在地に移し、鎮城の禪寺としたと伝えられる。

**伊文神社**  
西尾城下の鬼門の方向にあたり、天王門の脇を固める神社である。古くは伊文山牛頭天王社と呼ばれていた。西尾の郷社で、歴代西尾城主をはじめ、一般市民の信仰が厚く、江戸時代には18石5斗の朱印地を与えられていた。境内の東と北の崖は西尾城の外堀のあったところである。今は駐車場等になっているが、昭和30年頃までは蓮池で待時をしのばせていた。

**勝山寺(真言宗)**  
上町森下にあったのを寛延元年（1748年）、西尾城主三浦義理が現在地に飯堂を建てて秋葉坊と称した。勝山寺本堂の横にある抱き大師は持ち上げた時の軽重によって吉凶を判断し、軽く上がれば願いがかなうという。節分には多くの男女が参詣し、護摩のたかれる中で、本堂内外に向けて豆まきをし、厄落としをする風景はこの地の風物詩となっている。

**天王門跡**  
西尾城五か所門の一つ。伊文神社の大鳥居の東にある交差点付近が門の内側である。岡崎方面への出入口で、公民館前付近に位置する門は高麗門であった。東の方は一段低くなり、城下との境界がわかる。

**追羽門跡**  
西尾の表門ともいわれ、樓門の堂々たるものであった。西尾城五か所門の一つで、追弘門とも呼ばれた。現在も城下町時代そのままに、三角度曲に曲がる道路が残っている。

# 小京都めぐり 市街地散策コース

**盛巖寺(曹洞宗)**  
大給松平氏六代の家業が、祖父父の菩提を弔うため、上野国那波城（伊勢崎市）に在城の折、同地に建立したのが始まりである。松平氏の転封に伴い、美濃など各地に移転している。明和元年（1764年）に11代乗祐が西尾藩主となった時、出羽（山形）から現在地に移った。西尾藩主松平康全の墓のほか日本で3番目に女医となった高橋瑞子建立の碑がある。

**西尾市岩瀬文庫**  
日本の古い書物文化に触れ、楽しみ、学ぶことのできる「古書ミュージアム」。8万冊を超える蔵書は重要文化財を含む貴重なもの。明治41年、岩瀬弥助により創立。平成15年に古書の博物館としてリニューアル、平成19年12月に登録博物館となった。

**緑心寺(浄土宗)**  
西尾城主本多康俊が、実父酒井忠次の追善のため、慶長7年（1602年）に建立した。元和3年（1617年）、康俊の近江国（滋賀県）膳所への転封に従って移ったが、その子俊次が再び西尾城主となったので現在地に再建した。本堂内の砥石地蔵は産婦が祈願すれば安産となると信じられている。西尾藩士、若林喜惣兵衛の墓があり、酒を供えれば子供の夜泣きが治るといわれている。

**妙満寺(法華宗)**  
永禄8年（1565年）、富永忠 安の創立で鶴ヶ池村にあった。寛永2年（1625年）、西尾城主本多俊次（寛永の信仰厚く、参詣の便をはかって伊文天下に移した。のち万治2年（1659年）、西尾城主増山正利はこの寺を菩提寺と定め、境内の狭いこともあって現在地に移した。広い境内には西尾藩士の墓も多い。

**B コース**  
西尾駅起終点コース  
（約5.5km）  
所要時間 約3時間

**みどり川桜並木**  
大正15年、花の木耕地整理によって道路が整備された時、みどり川沿いに桜の木が植えられた。現在、約250本が植わっており、毎年春には桜まつりが開かれる。また、コミュニティ広場として整備され、市民の憩いの場となっている。

**西尾市歴史公園～西尾市岩瀬文庫コース**

所要時間	●駐車場	歴史公園
1.歴史公園 5分	●西尾市岩瀬文庫	西尾市岩瀬文庫
2.尚古荘 5分	●休憩所	歴史公園
3.康全寺 14分	●トイレ	西尾市岩瀬文庫
4.天王門跡 1分		歴史公園
5.伊文神社 10分		尚古荘
6.妙満寺 5分		井桁屋公園
7.追羽門跡 7分		伊文神社
8.盛巖寺 5分		西尾市岩瀬文庫
9.西尾市岩瀬文庫		

**聖蓮寺(真宗)**  
もとは城内八幡宮六坊の一、「宝光坊」といい、真言宗であったと伝えられる。重層式の立派な山門は大正8年の建立。境内には市の天然記念物イブキと明治の殖産指導者田中長頼の墓がある。

**表六ヶ町**  
西尾城下で有力商人が軒をつらねる、本町・中町・須田町・横町（幸町）・天王町・肴町をいう。伊文神社の祇園祭の出し物も、これらの町を中心に行われていた。

**肴町通り**  
城内の消費生活を支える日用品が商いされる商店街であった。昭和初年の道路拡幅で面影は一新してしまっが、平井家付近に城下町時代のたたずまいを残す。また、伊文神社の祇園祭の繰り物の一つ大名行列（市指定文化財）が7月に催される。

**B コース**  
西尾駅起終点コース

所要時間	11.歴史公園 15分	●休憩所	西尾駅
1.西尾駅 5分	12.尚古荘 5分	●西尾市岩瀬文庫	西尾市岩瀬文庫
2.みどり川桜並木 15分	13.新門跡 1分	●歴史公園	歴史公園
3.天王門跡 1分	14.大手門跡 10分	●トイレ	西尾駅
4.伊文神社 7分	15.唯法師 10分		伊文神社
5.妙満寺 7分	16.丁田門跡 10分		西尾市岩瀬文庫
6.盛巖寺 5分	17.西尾駅 15分		聖蓮寺
7.西尾市岩瀬文庫 11分	●駐車場		歴史公園
8.鶴ヶ崎天満宮 3分	西尾駅東広場駐車場（30分まで無料）		
9.緑心寺 3分	西尾駅南側立体駐車場（2時間まで無料）		
10.聖蓮寺 1分			

**順海町通り**  
天王町から肴町へゆるゆるの小径である。順海町の地名の由来は、唯法師の和尚順海がこの道を開いたことによると伝えられる。この通りは市内で一番城下町のたたずまいが残っている。

**唯法師(真宗)**  
順海上人が寛永年中（1624～44年）に現在地に移した。明治期の住職占部親順は真宗大学の学監（学長）を務め、多くの子弟を教育した。

**丁田門跡**  
中央通りの会生町へ入る辺りよりやや東方にあり、本町、和泉町に通じた。今は当時の面影はない。